



あなたがいない「 」を、
どう埋めるかさがしています

— 何かを失いながら生きていく私たちの声とグリーフケア —

概要

あなたがいない「 」を、どう埋めるかさがしています
—何かを失いながら生きていく私たちの声とグリーフケア—

日程：2025年2月8日（土）から16日（日）11～20時

会場：上野spaceバスチカ（東京都台東区上野2-10-7 B1F）

死別、別離、身体機能の喪失、尊厳の喪失...人は人生のうちで様々な喪失体験に出会います。その悲しみを抱えながらも今日を生きるため、当事者であり家族や友人である私たちに何ができるかを考えるアート展です。



展示

自身も親族の自死を経験した作家・清水伶が10人の喪失当事者と共に制作した映像インスタレーションを展示。それぞれの作品内では各々の喪失体験が告白されていきます。そこには単なる悲しみだけではなく、「今をどう生きるか」という問いが浮かび上がり、来場者は作品を通じて、自身の喪失と向き合い、新たな視点を得る機会を持ちました。

また、出演者が喪失対象へ宛てた手紙を複製し、来場者が自由に持ち帰れるようにしました。これは、今喪失を抱える人々には、自身の気持ちを整理し大切な人と共有する手助けとし、喪失と縁遠い人にとっても、家族や友人と共有し、いずれ来るであろうその時に備えていただく、という意図があります。

アートは、個人の経験を超えて人々の間に橋をかけ、共感や対話を生む力を持っています。本展を通じて、誰もが悲しみを打ち明けやすい社会の実現を目指しました。



パフォーマンス

11人目となる喪失当事者・不破ふわおさんの演じるサプライズパフォーマンス（脚本・映像：清水伶）を会期中2度実施。

また、清水伶自身が11通の手紙を読み上げながら作品制作の裏側なども紹介していくリーディングツアーも行いました。



トークショー

グリーンケアについての有識者や、アートとメンタルヘルスの関係をつなぐプロジェクトを実施しているアートキュレーター、山谷地域のサポートをしているNPO法人などをお呼びして、アート×福祉×地域についてのトークショーを実施。初日は立ち見が出るほど盛況で、アート展にも関わらず多くの福祉従事者がいらっしゃるなど、広く関心と呼ぶことに成功しました。

2/8（土）15時～16時半

「アートはケアを語れるか？美術業界をめぐる潮流とその責任について」登壇者：井手敏郎、堀内奈穂子、清水伶

2/11（火・祝）15時～16時半

「グリーンケアが必要とされる時代、台東区の場合」登壇者：本郷由美子、油井和徳、清水伶



感想（アンケートより抜粋）

改めて人のいたみと
自分のいたみに対して
やさしい気持ちが
ちょっとわきました

日々のささいなことが
どんなに奇跡で大切だったのか
痛いほど分かります

誰にでも起こるグリーフを
セルフケアの点からも
考えることのできる
いい時間となりました

かけがえのない存在を
大切にしようと思った

自分自身が答えを見つける
人生の旅があるなら
それを見守る社会が
優しくあれば良いなと感じました

今時点ではまだ自分にとっては早い
テーマなのかなと思う反面（中略）
どこかの場面で自分の生き方を変えて
いく一つの経験になると思うので、
この展示を知れて見る事が出来て
よかったです

とても素晴らしい展示でした。
感想がずっと後にやって来るような
深く染みる展示でした